

みつつはひとつ、  
ひとつはみつつ

放課後怪奇くらぶ リプレイ

沢渡 祥子

## はじめに

この本は、テーブルトークRPGのリプレイです。システムは「放課後怪奇くらぶ」。「クトゥルフの呼び声TRPG」に連なる、学園もののTRPGです。

「テーブルトークRPG」及び「リプレイ」に関する説明は、ここでは省きます。テーブルトークRPGわからないという方は.....申し訳ありませんが、ここを読んでみて、感覚的に理解できるというならばよし、わけがわからないという場合は、上記キーワードで検索でもかけてみてください。

今回は4人で遊んでおり、3人がそれぞれ自分の「キャラクター」を操作し、一人が物語の進行役を担っているという形です。

では、今回のおはなしへー。

## キャラクター紹介

### 1年7組 野沢玻奈 (のざわ・はな)



黄泉学園1年バドミントン部

STR10 DEX13 INT10 CON12 APP8 POW8

SIZ14 EDU15 HP13 MP8 SAN40

応急手当100%、ジャンプ75%バドミントン70%、目星90%

**玻奈**：野沢はな、です。

キパー：お名前はひらがな？

**玻奈**：いい字が浮かばないので、検討中。葉っぱの葉とかかなあと。

キパー：葉っぱの葉に葉っぱの葉？（笑）

**玻奈**：いやいやいや。

いろは：美味しそうー。鍋にしたーい！（笑）

**玻奈**：（辞書でしばらく探してから）——『玻奈』にしよう。玻璃の『玻』。

連：難しいー。

**玻奈**：霸王の『覇』とかはね、さすがに女の子には。（笑）

いろは：男子だったらむしろかっこいい。

キパー：世紀末救世主。（笑）

**玻奈**：今はバドミントン同好会で、もうちょっと頑張ると部になるんじゃないかというところらしい。あまり落ち着きのないタイプかもしれない。

### 1年3組 青山連 (あおやま・れん)



黄泉学園1年/吹奏楽部

STR13 DEX18 INT13 CON9 APP8 POW6

SIZ17 EDU18 HP13 MP6 SAN30

楽器演奏95%、聞き耳95%、機械修理80%、歴史80%

**連**：青山連です。性別男。生年月日は12月24日。

キパー：そこで生年月日言うのね。

**連**：これが肝だから。チャラさの象徴だから。（笑）

キパー：『チャラさ』なんだ？

いろは：（自画像を覗き込んで）うわ、すげえチャライ！ 眼鏡までかけてるよー！ しかも普通にかけているんじゃなくて前髪のところに！（笑）

**玻奈**：しかもサングラス。

**連**：中学校はサッカー部をやっていたんだけど、自分の運動神経のなさに気がついて、現在吹奏楽部です。

キパー：入るところに決めたというくらいかな。そこでまた壁にぶつかって部活やめるかもしれない。

**連**：向いていないかもしれない。どこかで気づくかもしれない。

玻奈：切ないな。

いろは：とりあえずコントラバス向け。身体が大きいから。

1年9組 石川いろは



黄泉学園1年/日本史部部員

STR12 DEX12 INT15 CON 7 APP11 POW 8

SIZ 9 EDU16 HP 8 MP 8 SAN 40

図書館90%、目星90%、聞き耳80%、説得80%、歴史70%

いろは：名前は、石川いろはです。五朗八でもいいよ。

連：五朗八あだ名なの？（笑）

いろは：日本史部で歴史オタで、それはじいちゃんの五右衛門譲りです。趣味はじいちゃんに似て渋いです。

キパー：水筒の中はお番茶とか入れているみたいなの。

いろは：ああ、そんな感じかなー。で、はぎれを縫って合わせたような弁当箱を持っていたよ。やけに渋い。というか年食った感じの。

玻奈：風呂敷をエコバックって言い張るタイプ？

いろは：うん。で、日本史部では、本読んだりしている。司馬遼太郎全集とか。

キパー：下手すると、一歩間違った歴史観を植え付けられてしまいそうだね。

いろは：一応、古文書とかも読んでいるよ。

キパー：年に一回とか、どーんとお出かけとかしちゃうんじゃないかな。

いろは：だね。きっと。部活で、今回は関ヶ原に行ってきます、とか、天地人ツアーをします、とか。

## 第1章 4月21日（月） 全校朝礼

シナリオの舞台となる黄泉学園は、かなり昔に自作した架空のものです。  
実在の人物・団体・地域・高校は関係ありません。

キパー：今日は4月21日月曜日です。

玻奈：じゃ、もう授業は始まっているよね。

キパー：うん。健康診断とかクラブ紹介とか対面式とかは終わってて、通常モードに入ろうという時です。で、今は朝礼——月曜日なんですね。時間になるとわらわらと体育館に移動する感じの。

玻奈：学年朝礼？

キパー：ううん、全校朝礼。

玻奈：そうか。……毎週ってあったっけ？ 時々あったなという気がするんだけど。

キパー：私も毎週あった気がしないんだけど、『週一』って資料に書いてあるんだよ。

いろは：覚えていない。週一あったかも。

キパー：で、みんながわらわら体育館に集まっている時に——えーと、いろはさんって背が高いんだっけ？

いろは：背が高いのはチャラ男。（笑）

連：チャラ男はあだ名じゃない！（笑）

キパー：では、青山君は朝礼では必然的に後ろにいると思うのですが、斜め前にいる女の子——小柄ってほどではない、髪の毛まっすぐな、（いろはを指して）こんな感じの子が。

玻奈：見覚えがある顔が。

キパー：その人がふっと目を引くんですよ。というのも、彼女の後ろにぴったりと何か影のようなものがついているのです。

いろは：なんか肩が凝っているなー。（笑）

キパー：人影っぽいけど、……えーと、1mに満たないくらいの影が、肩口くらいにぼーっとついていいる。

いろは：あ、全身じゃなくって、頭からこら辺までが見えると。

キパー：そうそう。

玻奈：いきなり？

キパー：うん、いきなり。

連：ほう。……凝視している。（笑）

キパー：では、何事もなく整列は済んで普通に朝礼が始まるわけですが……そうですね。他の人も当人も、その影に反応している気配はないです。青山君が凝視していると、光の加減でちらちらと、影の肩から先、腕みたいなのが動いて（いろはのプレイヤーの首に背後から手を添えるような感じで）こんな風に動いているのがわかる。

いろは：え———。

キパー：で、その影の服は、明るめのオレンジ色だなあというのが見て取れる。私服OK校とはいえ、あまり着てくるような色味じゃないかもしれないですね。——で、いろはさん。

いろは：はいはい。

キパー：朝礼中、校長先生の話をしている時に、なんか息苦しいなと思う。

いろは：とりあえず深呼吸してみる。

キパー：青山君、影の手がいろはさんの首に絡みついているように見える。

連：おお、なんか危ねえな。でも朝礼中なんだよね。

いろは：あ、でも、ここで倒れたら保健室に行ってサボれる。ラッキー。

キパー：では、そんなことを考えていると、期待通り意識がすーっと遠のいていく感じがするのです。——POWの5倍チェック。

### 【POWについて】

他のシステムにあまりみない能力値、『POW』。

端的には『意志の強さ』ですが、『超自然的なものへの耐性』が近いかもしれません。

霊的・魔術的なものに気づいたり、抵抗したり、使いこなしたりする能力です。

これが高いと正気度（SAN値）が高く、発狂しにくくなります。

いろは：POW、POW、40以下。（ころころ）おー、成功した！

キパー：では、めっちゃめっちゃ気持ち悪いが立ってはいられない。けど、このまま倒れちゃってもイイかなー、その方が楽かなー、みたいな？（笑）

いろは：とりあえず、先生～、って感じで横に避けていく。気持ち悪い～。

キパー：「ど、どうしたの。大丈夫？」

いろは：保健室にいいい～。

キパー：では、女の先生がいろはさんを抱えて、「この子連れて保健室行くね」と、近くに人に。

いろは：抱えられていきます。

連：どさくさに紛れてついていこう。（笑）

いろは：チャラ男、行動派だ！

連：途中で、この人なんか後ろについていたっス、って。（笑）

キパー：先生は、「……は？」（笑）

連：この人、後になんか憑いているんすよー。見えませんかー？

キパー：……えーと……。 「……青山君も、一緒に保健室、行こうか。疲れているみたいね。1時間目休んでいいから、ゆっくりしようか」

いろは：保健室で、頭って診れますかね。（笑）

キパー：では、保健室。いろはさんは保健室で一休み。青山君は座って問診。（笑）

連：先生の机の脇とかで。

キパー：保健室の先生が「何があったのか言ってごらん？」

連：なんか黒い影が見えたんですよ、この人の後ろに。

キパー：今はもう見えないですね。

連：今はもう見えないんすけどー、見えたんすよ。

キパー：うーん……。先生はちよつと困った様子で、「また見えるようになったら保健室においで」って言いますね。

いろは：そりゃ困るよな。どうしてみようもないよね。

キパー：で、一方。いろはさんは、青山君の後ろに影のようなものが見えます。

いろは：あ、見えるんだ。

キパー：人影の左半分な感じかな。ちなみに青山君がみたいろはさんの後の姿は、右半分な感じですよ。

いろは：右から左？

キパー：顔の右から7割くらいと、肩と腕。いろはさんに見えるのは、左の顔3割と、胴体の部分と、肘まで。

玻奈：合わさると一人になりそう？

いろは：とりあえず、目をごしごししてみる。

キパー：では、ごしごししてみたら、さっきよりはつきり見えるような気がする。一応、SANチェックしておきましょうか。失敗するとびっくりして声が出る。

### 【正気度（SAN値）について】

超自然的現象に直面した時に行う判定が『正気度チェック（SANチェック）』。

判定に成功＝恐怖に耐えた、あるいは恐怖から自分の精神を守ったこととなります。

現在の正気度を目標値（今回の目標値は40）にd%の判定です。低目で成功です。

いろは：40より低い数字を……（ころころ）失敗したー！

キパー：正気度を1点減らしておいてください。

いろは：正気度が39点だー。

キパー：以後は39点を目標値に振ってもらいます。

いろは：がーん！ えーと……名前、知っているんだよね？

キパー：ええ、中学校の頃に互いに知り合いだったということで。

いろは：チャラ男の後に変な影がー！（笑）

連：チャラ男じゃねえつつうの！

いろは：チャラ男君の後に何かいますー！

連：俺の後に何が！？ 後ろ、後ろって何ー！？

キパー：連が振り向いても当然ながら見えませんが、彼が後を向くと肩のところにくっついた影が一緒になって動く。

いろは：事細かに説明するよ。

キパー：お互いオレンジ色っぽい影だったのがわかるから、その辺は一致しているね。

いろは：ああ、服がオレンジっぽい。

キパー：保健室の先生はぼかんとして、「2人とも1時間目は休んでいいからここで寝たら」と言います。（笑）

いろは：あれ？

キパー：「私はこれから用事があるから」と、先生は席を外します。

いろは：とりあえず、怖いから布団を頭から被って寝ます。

連：あ、ずるい。俺だって怖エよ！（笑）

いろは：休んでいると楽になる？

キパー：そうですね、しばらく休んでいれば、ゆるゆると楽になります。まだちょっと頭が重い感じは残って、心臓はドキドキしている。

連：さっき、石川さんの後に見えたんですよ。なんで俺の後に来たんですかね。

いろは：布団被っているから。アーアー聞こえない聞こえないー。

キパー：返事ないんだ？（笑）

いろは：念仏を唱えてみる。なむあみだぶつなむあみだぶつ。（笑）

連：ちょっとお、石川さーん。寝ている場合じゃねーつスよ。

キパー：青山君は具合は悪くないですよ。授業は戻ろうと思えば戻れます。

連：平気なんだね。じゃ、戻ります。俺、行くわ。じゃ、また。

いろは：行ってらっしゃーい。

キパー：『また』、なんだ？

連：……何となく。

……まあ、こんな感じの世界観だということが、ここまでで大体わかると思います（笑）

この後、いろはさんは1時間目だけ休んで2時間目からはへろへろしながら通常授業、青山君と野沢さんは普通に授業を受け——場面は、放課後に突入です。

## 第2章 4月21日（月） 放課後

キパー：いろはさん。放課後、教室から廊下に出て、ふと外を見た時。——（玻奈に）バドミントン部の部室ってどっちだっけ。クラブ棟？

玻奈：うん、クラブ棟だったと思う。

キパー：じゃ、廊下に出たいろはさん。中庭にいる女の子の腰の辺りに、黒い影がぴたりとくっついてるのが見えます。オレンジ色の服の裾がぴらっと見えて、足が2本出ている。（黄泉学園のクラブ棟は中庭にあります）

玻奈：ぎゃーっ。

いろは：窓に寄って、窓を開けて、もう一度じーっと見てみる。

キパー：オレンジのコートの裾かなと思うものが確認できます。重たげな感じの布。

いろは：オレンジ色のコート！？ とりあえず、またごしごししたらくっきり見えるかな、と。

キパー：では、〈目星〉で判定してみてくださいー。

### 【技能判定について】

キャラクターが持っている技能を使う時は、技能判定を行います。

例によってd100の%判定で、以下が出れば成功です。

<目星>は捜し物をする時や異常に気づく時に使う技能で、かなりよく使います。

判定に成功すると『チェック』がつき、セッション終了後に技能値の成長判定ができます。

ちなみに00は常に失敗、01は常に成功です。

いろは：〈目星〉、〈目星〉。（ころころ）大丈夫、成功。42。

キパー：おー。じゃ、技能のところの四角いところにチェックをつけておいてください。後でこれを成長判定に使います。

いろは：へえ。使ったかどうかなんだ。

キパー：正確には、『成功したかどうか』ですねー。

いろは：で、〈目星〉で何かわかった？

キパー：うん。その影は、普通に皮つぽい靴を履いていますね。あと、左の肘から先があって、脇腹からおへその辺りにかけて手を添えている感じ。

玻奈：お、お腹痛くなりませんかね。

いろは：なりそうな感じだよ。じゃ……えーと、何て呼んでいたかな。まだ名字かなあ。

玻奈：かなあ。多分。

いろは：うん。野沢さん野沢さーん、って来い来いしてみる。結構必死。

玻奈：なあになあに。

いろは：影も一緒についてくる？

キパー：もちろん。

いろは：やっぱり一緒に来てるー！（笑）

玻奈：な、何が、何が！？

いろは：あのねー、そこにこれこれこういうものが憑いているんだけど、と。なるべくちっちゃい声で、まわりに聞こえないように。

玻奈：……はい？（笑）

いろは：ちよっと触らせて、って感じで。（と、突然胸や腹をぺたぺた触る仕草）

玻奈：うわー！ うわー！ うわーっ！（笑）

キパー：えーと……普通の女の子のおなかで、あつたかくてやわらかい？

玻奈：ごめん、最近、太ったかもしれないな！（笑）

いろは：じゃ、えーと、ちよっとそこで待ってて、って言って廊下から中庭に行ってみて、で、後ろから見てみる。

キパー：明るいところに出たらかなり薄くなりました。



いろは：あれ。ぼやけた。

キパー：で、野沢さんは、いろはさんの後にすっごい薄い黒い雲のような影のような。

いろは：眼鏡くもったかなあくらい？

玻奈：でも、多分眼鏡はない。近づいて確認。

いろは：互いに近づいて確認している。あれー？ これこれこういうものがあつただけど.....

玻奈：な、ないから。そういうのないから。

いろは：で、オレンジ色のコート着てて、革靴履いてて、とことこまかに説明してみる。

玻奈：でもないから。ないから。ないから。ないから。

キパー：そんな感じでわちゃわちゃやっていると——青山君は、今日は普通に部活でしょうかね？

連：部活ですかね。

キパー：じゃ、部活中に移動していたら2人でとても仲良くたわむれ.....？ まあ、2人の後に影が見える。いろはさんも、青山君が通りかかったのに気づきます。

いろは：チャラ男君、チャラ男君ー！

連：ちーっす。どうしたんスかー。

いろは：.....あだ名に慣れた。

キパー：呼ばれ慣れるもんなんだね。

いろは：とりあえず、対面させてみる。

キパー：お互い見えるよ。ただ、3人ともぼんやりした影。

連：本当だ、影、ついているっすよ。やばいっすよこれー。見えるっすよー。

玻奈：見えなくてもいい、見えなくてもいいっ。

連：気持ち悪いっすね。

いろは：気持ち悪い。

玻奈：ねえ、石川さんとチャラ君の、合わせると一人にならない？ 半分と、半分で。

いろは：人のものは細かく説明しているから、あれ、上着の色が同じ？

玻奈：そうだね、オレンジとオレンジ。

いろは：そっちのも、オレンジの裾が見えている。コート着ているよね。

玻奈：私のはそこまでないから。とにかく、あなた達のを合わせると1つになるみたいだからっ

連：いやいやいや。自分だけ部外者みたいない方はやめてもらえますかー。

玻奈：自分のものはさておいて人のものだけ言う。そこで2人が仲良くするといいんじゃないのかなー。

連：いやいやいや。

いろは：絵描きとかできないんだよね。.....あ、写真！ 写真部でカメラ借りてくる！！

玻奈：あー！

いろは：っていうか、部活の備品にカメラあるのかな。〈写真術〉ってあるんだけど。

キパー：こういう時に適用に困ると、また幸運判定とかしちゃうんだ。

いろは：じゃ、幸運。（ころころ）大丈夫。部活である奴って撮りつきり.....？

玻奈：もしかしてデジカメ？

いろは：あ、そうか。今デジカメだ！

玻奈：でも、備品にあるかな.....。

キパー：デジカメがあるってことはパソコンがあるってことだもんね。そこまでは備品にはないんじゃないかなあ.....。

いろは：でも、部活の技能に〈写真術〉ってあるんだもん。それはきっと部活に使うからあるのであって。

キパー：普通のカメラはあるよ。多分、昔に買って、そのままずーっと使い続けているような。

いろは：えー。

玻奈：昭和の時代から使っています、みたいな。

いろは：じゃ、フィルムの残りを見してみる。あと何枚撮れるかな。残りがあんまりいっぱいあると現像に出したくないから、ちょうどいいのがないかな。

キパー：あー、そうですね。じゃ、2d10してください。

いろは：たあつ。（ころころ）……残り12枚。

連：ガンガンに撮ればいい。（笑）

キパー：〈写真術〉判定してください。

いろは：たあつ。（ころころ）41。成功ー。

キパー：はい、チェック入れておいてね。写真は撮れたと思います。現像は……今から出すと、明後日とくらいかな。

連：また気が長い話だなあ。

いろは：うん、でも、一応。デジカメないし。——あ、携帯のデジカメ！ 携帯のデジカメで撮ってみる。で、すぐに見てみる！

玻奈：ああ、そうか。携帯のカメラ機能使えばいいんだ。

キパー：——では、POWの2倍を。

いろは：2倍は、16？

キパー：うわ、それしかないのか。まあいいや、それでお願いします。

いろは：（ころころ）失敗。真っ黒い。

キパー：……携帯が『ぷすんっ！』って行って、つーつーつー。しーん。液晶真っ暗。

いろは：あれっ！？ あれ、壊れた？ えー。怒られるー！

連：あーあ、壊れちゃった。

いろは：チャラ男君、チャラ男君の携帯で撮ってみて。

連：ヤだよ、壊れるんだろ。壊れると嫌だよー。

キパー：そんなことをしていると、野沢さんには「玻奈ちゃん、部活行くよー」と声が。

いろは：あ、部活が始まっちゃうのね。

玻奈：じゃ、また、そういうことで。……『また』？ あんまり『また』じゃない方がいいかなあ。

いろは：行ってらっしゃーい。現像出しに行つてこようかな。日本史部だから活動少ないし。

連：あ、石川さん、そういうヒマな部っスか。俺は部活行きます。

いろは：暇言うなー。

そんな会話をしつつこの日は解散。

時間は、2日後に現像が仕上がるまで一気にすっ飛ばしまーす。

玻奈：その2日は、見かけるとやっぱり影がいたりするわけ？

キパー：そうですね、慣れてくると段々はつきり見えてくるよ。

いろは：いやーな話だな。

### 第3章 4月23日（水） 放課後

キパー：写真が現像されてきます。

いろは：できたー！ 一人じゃ見ない。袋のまま持ってきて呼び集める。写真できたよー。

キパー：では、誰かの教室に集まってーで、いいのかな。呼び出されたら大人しく来る？

連：まあ、行く。

玻奈：一応。

キパー：では、12枚撮った中で、うち2、3枚に女性が写っています。オレンジ色のコートを着て、ぼーっと佇んでいる女性。年はあなたたちと大差ないようですが薄くお化粧をしており、髪がちょっと長めで、毛先に緩くウェーブがかかっている。

玻奈：全身きっちりちゃんど？

キパー：そうですね。それが、青山君と野沢さんの間にぼーっと立っている。

玻奈：い、いなかったよね？

連：いなかった。

いろは：こんな生徒いないよね。

連：ちょっとこれやばいっすよ。お祓いしてもらった方がいいんじゃないっすか。

いろは：お祓い……って、神社？

連：そういう専門のところに見てもらったほうがいいんじゃないっすか。。

いろは：専門ってどこ。

キパー：えーっと、確か古文の先生に神主がいたような。……古文だっけ現国だっけ、誰かいたような気がする。

いろは：何先生？

キパー：じゃ、吉田先生ということで。

いろは：吉田先生のところに行ってみようか。教務室かな。

キパー：では、先生は次の授業用なのか何か資料を作っていました。「どうした？」と振り返る。3人の誰かは関わりがあるかなあ？

玻奈：あるんじゃないかな、一人くらいは。あつてほしいな。

いろは：古文の授業でもやっているかどうか。

キパー：判定しなくてもいいかなあ。……（4面ダイスを構えて、1人ずつ指さしながら）1、2、3。4が出たら誰の担任でもない。（ころっ）3。いろはさんの担任。「石川、どうした？」

いろは：やった。じゃ、写真を見せよう。

玻奈：いや、待って待って。『先生に相談があるんですー』とか、その辺からいこうよ。

いろは：先生に相談があるんですけども。……えーっと……。

玻奈：『先生のお宅ではお祓いみたいなことしているんですか』とか。……ストレートだなあ。

連：ストレートだな。

キパー：「やってるぞ。たまに頼んでくる奴はいるけど、形ばかり玉串振ってみせれば終わるけどなー」

いろは：がーん。

連：大丈夫か、それ？

キパー：「ああいうのは気の持ちようだから、適当なことしてみせて、もう大丈夫だよって言えばいいんだよ」

玻奈：もうちょっと真剣にやっている人っていますか、先生の知り合いで。

キパー：「さあ……この辺の神主も坊主も、みんなそんなもんじゃないかなあ」

連：ちょっとこれは頼りないね。

いろは：とりあえずダメっぽい。

玻奈：でも、先生の紹介をもらってお祓いに行ってみたいー。

連：その写真で事の重大さを教えるとかは？

玻奈：じゃ、こういう生徒知りませんかみたいな。その、オレンジ色の服の。先輩かもしれないんですけど、と。卒業生だとわかれば一気に。

キパー：（ころころ）「そんなに顔はつきり写ってないじゃないか」と。「あ、でも、顔はわからねえけど、怪談話の登場人物みたいだな。なんか、オレンジのコートの女性に場所を聞かれるとかいう……」

いろは：え。あの、その話どこから聞きましたか？

キパー：いや、2年か3年でそういう話に興味がありそうな奴らだったら、知っているんじゃないかな。

いろは：興味がありそうな人。——オカルト部？

連：そういやあったね。

いろは：じゃ、行ってみます。ありがとうございます。

玻奈：私の部活の先輩知っていないかな。3年生もいるよね。

キパー：そうですね、運動部にもまだ3年生は来ている。夏休み前には来なくなるんだっけ。

連：じゃ、先輩に聞いてみますか。

いろは：人数が多い部活って？

玻奈：吹奏楽は、でも、部活中だと聞きにくいかも。バドミントンの部室の方がまだ聞ける。

連：バドミントン部。

キパー：はい。バドミントン部の部室にちょうど3年生がいるかどうかは——幸運判定です。

玻奈：私、幸薄いんですが……（ころころ）あ、成功。21。

キパー：じゃ、女子の先輩がいる。部室には来るけど、いつも部室にいる人。名前は何にしようかな——佐々木さんということで。

玻奈：あ、佐々木先輩だ。

キパー：「あれっ。えーっとお……。ごめん、まだ名前を覚えていない」

玻奈：野沢で一す。……あ、入部希望者、石川さん。

キパー：「え、入部希望者！？ ありがとうございますありがとうございます！」

いろは：えええっ！？ 違います違いまーす！

キパー：「はいはい、これ入部届けね。名前を書いてね。えーっとお、お茶でも入れようか。コーラまだあったっけ」

いろは：ええええ、なんか大歓迎だ！

玻奈：名前書いてくれればOKだから、名前だけ貸してよ。そしたら部になるから。

いろは：……じゃ、まあ、名前だけなら。

玻奈：で、先輩。ちょっと聞きたいんですけど。学校の階段とかで、オレンジのコートの人がどうとかっていう話、本当にあるんですか。

キパー：誰もいない夜のコートに、白いボールだけが飛び交っている、みたいな？

玻奈：いやいや、そのコートじゃくて！ それは何かアニメの歌じゃないかしら。

キパー：……思い出せるかなあ。

いろは：先輩がんばれ。超頑張れ。

キパー：（ころころ）うん、これなら知っている。「私もそんなに詳しい訳じゃないんだけどね。私の友達のお姉さんの友達が実際に体験した話で……」

いろは：超他人の話。（笑）

### 【オレンジのコートの子の話】

ある時、この学校の卒業生数人が、母校に遊びに来たの。  
卒業して1年も経っていなかったけど色々懐かしくて、学校の中を見て回りながら、辺りが薄暗くなるくらいまでおしゃべりしていたらしいのね。

その時、一人女の子が……名前なんだったかなあ……一人の女の子が、忘れ物をした

からちよつと戻るっていなくなっちゃって。待っても待っても戻ってこなくて。  
彼女の姿は忽然と消えちゃったの。  
来訪者用の玄関には、彼女の靴は残ったまま。

それ以降、放課後の事務室棟で、オレンジ色のコートの女の人に話しかけられるっ  
という話が出たの。出口はどこですかって聞かれるんだってさ。

連：へー。

キパー：「——今でも、校内で迷子になったというその人が、どこかにさ迷っているんじゃないか  
って話」

いろは：まだ聞かれていないよね.....出口。

玻奈：うーん、よくありすぎて.....。写真、見せてみる？

いろは：でも、何も知らなそうだよ。古参の先生に聞いてみるとか。一番ここに長くいる先生っ  
てわかりませんか？

キパー：そうですね、もう先生の自己紹介とかも終わっているでしょうし。.....どういう科目の先  
生が長そうかな？

玻奈：理科とか。福山くん。

キパー：あ、懐かしいな。じゃ、福山先生が定年直前だと思出す。

いろは：行ってみる。授業の話じゃないから大丈夫だろう。

玻奈：理科準備室かな。

キパー：んー.....。でも、もう結構な時間だよな。そうすると、もう、先生いないや。

いろは：あー、帰っちゃったか。

キパー：今日はここまで。

いろは：この写真、どうしよう？

連：石川さん、撮ったんだから持っていてくださいよー。

いろは：えー。じゃ、自分の机の中に入れておく。教科書とか置いてある中に一緒に。

キパー：——では、突っ込んだ手が、机の中で誰かに重ねられた。

いろは：引っこ抜く！！（笑）

キパー：SANチェックをお願いします。.....おかしいなあ、なんでいろはさんばかりSANチェック  
なんだろう。

いろは：（ころころ）失敗。

キパー：えーっと、じゃ、ガターンと机を揺らすほど手を引っこ抜いた。

いろは：うん。そのままのけぞって、後ろの机にぶつかって転ぶ。（笑）

連：ど、どうしたんスか！？

いろは：手、手、ててててててててっ。

玻奈：手が何。手が何。

いろは：指さして、机の中に指さして、手手手手手。

玻奈：じゃ、覗き込む。

キパー：——目が合います。

玻奈：.....。

キパー：SANチェックをどうぞ。（笑）

玻奈：（ころころ）31、成功。

キパー：では、息を呑んだぐらいで、取り乱したりはしませんでした。

玻奈：.....帰ろう。

連：何、何があったんすか。

キパー：で.....ここで3人とも、アイディアロールをお願いします。

いろは：75だー。（ころころ）失敗。

玻奈：（ころころ）わからない。

連：（ころころ）成功した。

キパー：では、青山君は気づきます。いろはさんの机、他の人のよりちょっと古めかしいんですね。

連：ほう。

キパー：そういえば自分の机も、他の人のとデザインが違ったなあという感じがする。他の人の机の面がつるつるしていて角がちゃんと丸いけど、あなた達のが色がちょっとくすんでいて、角が出ている。

いろは：あ一年代ものだなあ、古いのに当たっちゃったぜ、みたいな。

キパー：そうそう。全体的にちょっとガタガタしているような。

連：これ、石川さんの机ですよ。俺もこれなんスよ。

いろは：カクカクカク。

キパー：ちなみに、同じタイプの机は、他にはこの教室にはありません。

いろは：プレイヤーは、野沢さんのはどうかなあと思うんだけど、本人はカクカクしているから言えない。

連：野沢さん、机って……？

玻奈：えー。別に普通だと思うよ。

いろは：行ってみればいいじゃんってプレイヤーは思うんだけど、キャラクターはカクカクしている。

玻奈：石川さん、違うところ行く？

いろは：カクカクカク。

連：大丈夫ですか、ちょっと連れて行きましょうか。

いろは：洗面所に行って、手をごしごしあらう。石鹸で。

キパー：はい。3本の手で。

いろは：……えっ。

キパー：ごしごし。

玻奈：えっ！？

キパー：SANチェックしておこうか。（笑）

いろは：うわああああーっ！（ころころ）失敗ー。

キパー：正気度1点減らしておいてください。

玻奈：なんか集中しているよ。

いろは：えーと……えーと……とりあえず、水出しっぱなしで野沢さんに抱きつく！ ぎゅう。

玻奈：とりあえず手を拭いて手を拭いて！（笑）

いろは：手手手手手。手があ〜！ 手が掴む〜。手首だけ見えた〜。

玻奈：まあ、落ち着こう落ち着こう。出しっぱの水道を閉めて、手を拭かせて。

キパー：今日はもう真っ暗ですね。

いろは：帰る〜！

玻奈：帰れる？ 石川さん。

いろは：うー。迎えに来てもらおうー。

玻奈：近くまで送っていくよ、そんなにあれなら。

いろは：ありがとうー。

……ちょっとやりすぎましたかね。

反応が面白かったので、ついイロイロと。いろはさんありがとう。

## 夢

キパー：23日の夜中。――3人揃って、金縛りです。

いろは：え。

連：ぎゃーっ。

キパー：目はぱっちり開いている、景色はいつも通りに見える、自分は布団もしくはベッドの中だ。でも、指が一本も動かさません。

玻奈：うん。

キパー：で、自分の転がっている床が布団やベッドの感覚ではなく、ぎしぎしする固い木の感触がします。そこで、ひたっとほっぺたに手をあてられる感触。

いろは：うんうん。

キパー：それが額からほっぺた撫でて、首の辺りでちょっと止まって、肩を撫でて……。

玻奈：ぎゃーっ。

キパー：そのまま背中まで手はすーっと流れていくのですが、触られたところからじわっと何かが流れていくような、痛くないけどドロツとしたものが流れていくような。

いろは：ひえーっ。

キパー：で、どんどん流れ出て手足が冷たくなる感じがする状態で――朝を迎えます。

連：怖い怖い怖い！

玻奈：寝れてません。

キパー：SANチェックお願いしまーす。失敗した人はd4ずつのSAN値を減らしてください。

いろは：怖すぎまーす。(ころころ)あ、やった！ 成功したよー！

玻奈：(ころころ)失敗。(ころころ)1点減った。

連：(ころころ)失敗しています。(ころころ)1点。

キパー：あと全員、MPを1点ずつ減らしてね。――というわけで、今日も元気にいってましよう。

玻奈：無理で～す。

いろは：元気ないで～す。朝ご飯味噌汁だけ、みたいなの。

## 第4章 4月24日（木） 朝

キパー：野沢さん。明るいところに見るあなたの机は、この教室にあるどの机より古めかしい気がします。

玻奈：あれ。

キパー：あと、3人とも。朝学校に来て自分の机を見たら、幻覚か何か……どこかから机を見下ろしているような景色がダブッて見えた。

玻奈：天井？

連：まちこええー！

いろは：テンションだだ低のまま、机の中のものを引っ張り出してカバンに入れます。

キパー：机の中からはちょっとカビくさいニオイがするような気がします。

玻奈：そんなの今までなかったよね。

キパー：どうかな、意識したことはなかったですね。

いろは：担任の先生のところに行って、机が古いので替えてもらいたいです、と。

連：1人だけで何てことを。（笑）

キパー：吉田先生が「わかったけど、ええと、どこに換えの机あったかなあ。ちょっと調べておくわ。しばらくその机で我慢しとけ」と。

いろは：えー。先生、早くお願いします。

キパー：「古いだけで何の問題もないだろう？」

いろは：カビくさいで一す。

キパー：「そんな気にすることは無いと思うんだがなあ。まあ、わかったよ」

連：昼休みに、野沢さんの机を見に行こうかな。

玻奈：おー、チャラ君。

キパー：……なんか、猫呼んでいるみたいになってきているね。

連：野沢さんの机、これっすか。

玻奈：そうそう。今日見たら、ちょっと古いかなって思ったり。

連：やっぱり。やっぱりそうなんすよ。3人とも机が古いんすよ。

玻奈：机、古くなかったら大丈夫？

連：それはわかんないけど、何か関係あるんじゃないっすかね。思っただけっすけど。

玻奈：えーっ。ど、ど、どうしたらいいと思う。

キパー：あ、そうだ。2人とも、お互いの顔色がよくないっていうか具合が悪そうな印象はするかもしれない。

玻奈：そういえば、あんま顔色よくないみたいだけど。

連：あー、わかります？ 昨日、ちょー怖かったんですよー。金縛りに遭って、マジ怖くてー。泣きそうだったんですよー。

キパー：（笑いをかみ殺しつつ）……なんで青山君の台詞って、聞いていると笑っちゃうんだろう。（笑）

いろは：多分、チャラ男だから。

玻奈：本人は真剣なのに。

いろは：言っていることはまじめで行動もちゃんとしているんだけど、でもチャラ男。

玻奈：私も昨日金縛りっぽくって……。

連：マジですかー。やっぱそうなんすよねー。やっぱ俺らだけちょっと、呪われているんじゃないですかね。俺、ちょー怖いっすよー。

玻奈：変な夢とか見なかった？

連：夢？ あー、そういえばなんか、撫でられる夢見たー。

玻奈：……同じげな夢でしょうか。

キパー：心当たりはありますね。

玻奈：撫でられた時、天井から吊されたっぽくなかった？



いろは：ん、それは何か混ざっている混ざっている。

玻奈：あれ？

いろは：机見た時に、何か天井から見たような感じがしたけど、それは金縛りの時のじゃないよ。

連：石川さん大丈夫ですかねえ。

玻奈：あ、行ってみようか。

いろは：昼休みは、机の上で弁当食いたくないから保健室に逃げている。

キパー：他の人には言ってから行った？

いろは：うん。

キパー：じゃ、クラスの子が「気持ち悪いから、って、保健室に行ったよー」って。

玻奈：ありがとう、行ってみる。

連：やっぱ体調よくないんすよ。

いろは：どよーんと沈んだ空気のまま、弁当食っているよ。

玻奈：でも食べるんだね。……失礼しまーす。先生とかいたりするのかな。

キパー：今はいないですね。先生は、いろはさんには「授業までには戻るんだよ」って釘を刺してから出て行った。

連：石川さんいますかー？

いろは：はい。どろどろどろ。

玻奈：だ、大丈夫……？

連：テンションだだ下がりっスね。大丈夫っスか。

いろは：あの机のところにいたくないもーん。

連：やっぱ机怖いつスよね。

玻奈：私の机もあんなだった。

いろは：えー、やっぱりー。

連：で、昨日、金縛りに合わなかったっスか。

いろは：あったよー。しかも、なんか撫でられて血が出たような気がしたよー。

連：ほらあ！ おんなじっス！

玻奈：なんでそんな、おんなじ夢なんか見るかなあ。

いろは：ね。

連：これ、何とかしないと呪い殺されるんじゃないですか。

いろは：放課後、オカルト部に行こうと思うんだけど。

連：俺も行く。もうあんなラッパ吹いている場合じゃないっスよ。（笑）

玻奈：え、オカルト部はちよっとなんか……存在感がちよっと。（笑）

連：えー、でも、一番詳しそうだよ。

キパー：オカ研は絶賛部員募集中です。

連：それは嫌だ。また入れられたら嫌だなー。

玻奈：押しに弱そうだよ。

連：見所あるよ君、とか言われて。

キパー：あと……後ろの影は日中が薄くて、比較的夕方濃いかなと思えるようになりました。

連：これ、常時見えているんだ。今日も順調に見えているっスね。

キパー：午前中はほとんど見えない状態だけどね。

いろは：朝に弱いんだね。

キパー：それぞれぴったり密着されている状態ですね。でも自分のは見えない。

玻奈：よかったね、そんなに女の子に抱きつかれたことないんじゃない。

連：いやいやいや。余計なお世話っスよ。

玻奈：表情とか、はつきりしてきたとか。

キパー：表情はない。どこかまっすぐ先を見ている感じがするけど、遠くを見ていて焦点が合っていないようにも見える。

いろは：あー、なんか遠い目しているー。

連：なんかそろそろ見慣れてきたっスね、この人。

## 第5章 4月24日（木） 放課後

ぼちぼち大詰めなのです。

**玻奈**：名前でも調べる？

**いろは**：そうだね、名前ないと呼びづらいしね。

**玻奈**：オカルト部は最後にしようよ。生徒名簿とかでわかるなら、そっちに当たりたい。

野沢さんがとことんオカルト部を回避しているのが、なんだろな、って思ったり。  
いろいろNPC用意して、待っていたのですよ？

**キパー**：個々の図書館の名簿は図書室にありますけど、何を調べるんですか？

**いろは**：えー……オレンジのコートとかはわかるんだけど、卒業年度とか、そういうのは全然わかんない？

**連**：写真からしかわからないんだよね。

**玻奈**：先輩のお姉ちゃんの友達……先輩のお姉ちゃんって、いくつくらい年が離れているとかってきたことって？

**キパー**：4つ上の人らしいですよ。

**いろは**：じゃ、5年前から探していく？ 顔とかオレンジのコートとかで。

**玻奈**：そうだね。1年くらいずつぺらぺらめくって、人海戦術。

**キパー**：……その条件だと結構難しいね……。〈図書館〉の1/2判定をしてみてください。

**いろは**：（ころころ）やったあ！ 02！

**連・玻奈**：お————！

**キパー**：出たねえ。じゃ、わかるか……。今から15年くらい前の卒業生ですね。

**いろは**：出た——！！ ずいぶんさかのぼったね。

**キパー**：これ3人で調べるのに、2時間か3時間はかかっちゃうね。

**いろは**：またとつぷり夕方だよ。濃くなってきたね。

**キパー**：お名前は、滝沢杏子さんですね。

**いろは**：とりあえず呼びかけてみる。……滝沢さーん。

**キパー**：反応はないね。

**玻奈**：怪しいことは書いていないですか。途中で転校しちやったとか。

**キパー**：そういうのはないですね。

**玻奈**：クラスと、担任の先生の名前がわかれば。

**キパー**：（ころころ）10組の生徒で、いるかいはいかは……（ころころ）いません。名前は松本先生という人です。

**いろは**：で、松本先生を知っている先生がこの学校にいるか。

**連**：これと同じ時代で先生をしていたような。

**玻奈**：名簿のところに教職員名簿もくつついているはずだから、今知っている名前を。

**いろは**：その中で、まず知っている先生はいないか。

**キパー**：それは……そうですね、吉田先生がその当時から在籍しています。

**いろは**：吉田先生いた——！ じゃ、アルバム持って、吉田先生のところに聞きにいってみようか。

**いろは**：じゃ、また教務室で。吉田先生ー。15年前の卒業生の滝沢杏子さんについてなんですけどー。

**キパー**：「……はあ？」

**玻奈**：アルバムのページとか見せると、思い出すかな。

**キパー**：先生が思い出せるかどうかは……いや、知ってるか。

**いろは**：やった！ だって行方不明だもーん。

キパー：だよ。 「ああ、こいつなあ」という反応を示します。「なんでそんなことを聞くんだ」と。

玻奈：ちょっと似た人を見て……。

キパー：「え？ なんで、どこで、いつ？」

いろは：あ、こないだ見てもらった写真のこの人なんですけど。

玻奈：写真を撮ったらなぜか写っていて……。

キパー：「お前達なあ。写真に似た姿があったといっても、滝沢杏子って今30代だろう。全然違うだろう」

いろは：あ、そうですか。……とりあえず、当時のことを聞かせてもらいたいなあ。

キパー：吉田先生もそう詳しいことは知りません。冬の始め頃、とある卒業生が出かけたまま帰ってこなかったと。そのこと自体は、学校とは関係がないんだそうです。学校に来たという話は全くなく、友達と会うからと出かけていったきり帰ってこなかった。

玻奈：ふうん。

キパー：「今頃どこでどうしているのかなあ。東京にでも出て無事に暮らしてくれているといいんだが。生きていてくれればそれ以上は言わないよ」

玻奈：まあ、生きていてくれればねえ。

キパー：——あと、いろはさんに吉田先生が「そういや、机変えたいって言っていたっけ？」と。

いろは：あ、はいはいはいっ！ はいはいはいはい！（笑）

玻奈：そういえば。

キパー：「事務に聞いたら、残っている机があるって言っていたから」と、あなた方を連れて教務室の手前の鍵ボックスに。

いろは：ああ、はいはい。

キパー：そこから鍵を出して、「事務室等の2階の角に用具室があるから、そこに残っている机、どれでもいいから持って行っていいぞ」

いろは：はい。どうもありがとうございます！ ……というわけで、2人連れて行く。

……さて。

そろそろ放課後怪奇なお時間ですよ。

## 第6章 4月24日（木） 夕刻過ぎ

用具室は、事務室棟2階の角部屋。  
ほとんど使われていない、物置同然の一室なのです。

いろは：かび臭かったりしないかなあ。ちょっと怖がりつつ。

キパー：はい。古げな鍵ですが、きしきしがたがた言いながら開きます。事務室棟はそもそも古い建物なので、鍵も古い。

いろは：開けて、中を覗き込む。

キパー：入らないで覗き込むのか。

いろは：だ、だって暗いし。怖いから。

キパー：電気のスイッチがありますよ。

いろは：誰か、電気つけてー。

キパー：電気『つけて』？（笑）

連：じゃあ、電気つけます。

キパー：扉は1カ所で、奥にモノがごちゃっと積んである。机は奥ですね。

玻奈：じゃ、奥まで行って……。

いろは：行かないで待っている。

玻奈：自分の机でしょ？

いろは：そうなんだけど、ほら、あの机があったところだよ。みんな古そう？

キパー：みんな古そう。みんな同じように古そう。

いろは：これもしかして、全部ダメ？

キパー：そんなことをしていると——いろはさん、DEXの対抗判定をしてください。

いろは：やっぱりいいいいいい！（ころころ）たあっ！ 35！

### 【対抗判定について】

誰かと何かを競う場合、互いの能力値から目標値を算出し、能動側が判定をします。  
計算の式は『（能動側能力値－受動側能力値）×5＋50＝目標値％』

キパー：……となると……ダメだね。後ろから、たむっ、と手があなたを突き飛ばした気がしました。

いろは：いやああああっ！

キパー：で、後ろでばたんっ、ってドアが閉まる。

玻奈：閉じこめられた？

いろは：もちろん開けようとするのです！ 体当たりをするのです！

キパー：た、体当たり！……そこはSTRの対抗判定ですね。

いろは：STR！？でも半分もうパニックだから体当たりするのです。（ころころ）01！

キパー：では、ドアががたんと軋んで、そのまま変なところではまりこんで動かなくなる。

いろは：えー……。じゃ、振り向いて……。……とりあえず、ごめん。

連：何遊んでいるのさー。

玻奈：ドア、ガタガタやってみるよ。

キパー：今のショックで完全に変なところにはまりこんだみたいだよ。

連：ちよっとなんスかこれ。他に入り口は……。

玻奈：窓とかあるの？

キパー：窓はあります。用具室なのでベニヤ板が窓に向けて立てかけてあるので外の状況がよく見えない。

玻奈：ベニヤをずらして、外が見える状態にしたいな。

キパー：ずらすことはできます。ホコリっぽい空気かもあもあ立ち登っていく。

いろは：げふー。ハンカチあてるー。

玻奈：ごめんごめん、げほげほ。

キパー：6時半は過ぎていきますから、部活の撤収は終わっていて、グラウンドの隅っこに街灯が一個。第一体育館も消えているし、全体的に真っ暗です。

いろは：教務室まわりは遅くまでついているかな。

キパー：そこはついているね。事務室も、半分電気がついているようです。

いろは：半泣き。

キパー：この部屋は、かつては教室だったんだと思います。というのも、黒板を外した痕があり、天井にはスピーカーがぶらさがっていたらろう穴があって、その天井板はちょっとずれているから。

手前には組み立て式のラック本棚。古びた本や段ボールが置いてあり、どれもこれも古いですね。今から15年~20年前くらいのものばかり。

玻奈：いじっていないんだね。

キパー：で、この部屋に入ったら、お互いの後ろがかなりはつきりしてきたような気がします。

連：お。おー。

いろは：どうしようか、滝沢さん。

連：そこで滝沢さんに話しかけるんだ？

いろは：とりあえず出なきゃ。窓から降りることができるかな。

キパー：鍵がかかっている、開きません。たてつけが悪いみたいです。

いろは：全部？

キパー：うん。

玻奈：ガラス割るわけにもいかないしね。

連：割ったら、マジで怒られるよ。

いろは：えーっ。いいよ、下に人いなければ。出たくてしょうがない。

連：まあ、確かに窓を壊すか戸を壊すかの2択ぐらいしかないけど。でもガラスは下手に壊すと出る時危ない。

いろは：全部壊せばいいじゃん、枠だけにすればいいじゃん。大きな音を立てたら先生が気づくかもしれないし。

連：まあね。

玻奈：でも、ドアをどンドンやっている時は気づかなかったんだよね。

キパー：うん。結構な音はしていたとは思いますが。まあ、みんな帰っちゃったんじゃないでしょうかね。

いろは：えー。先生方、定時上がり過ぎるよ。もっと残業しようよ。

玻奈：部屋の中を漁ってみる。電気が消えないうちに。

キパー：ここは、各自〈目星〉でしょうか。

玻奈：(ころころ)あ、失敗した。ウソー。

いろは：(ころころ)はい、70。成功。

連：(ころころ)うん、無理。99。ギリだ。

キパー：物を壊すのに使えそうなものはたくさんありますね。あと、机と椅子があったところの、間ぐらいの真下に黒いシミ。

連：あー。ヤなものを見つけちゃったな。

キパー：見上げると、そこにもシミ。

玻奈：え、上辺りに？ .....なんか、天井にも入れそうなこと言っていないでした？ 板があいているみたいな。

キパー：板が開いている、とは言いました。

玻奈：ちょっとチャラ君、チャラ君。あそこ届く？ (笑)

いろは：あー、背、高いもんね。はい、机と椅子。

キパー：こういう時、男の子は損だね。

玻奈：女の子でも背的に頼んだかもしれない。

キパー：でも、自分の背丈だけじゃとどかないよ。机の上に椅子乗せるくらいしないと。

いろは：机の上の椅子は押さえておく。

連：離さないでくださいよー。

玻奈：大丈夫大丈夫。

キパー：では、そこに立つと.....どこまで届くかなあ。

いろは：電球変えるくらいは余裕なはず。

キパー：教室の電球外す時って、机の上に椅子を乗せると届くくらいだったっけ？

いろは：うん。ちょうど電球変えやすい辺りに。

キパー：青山君は背が高いから、天井に余裕で手首が届くくらいかな。スピーカーがあった板は、持ち上げるとかなり簡単にぺこっと持ち上がる。

連：もうちょっと高くないと何も見えないっすね。

玻奈：何か見える？

連：こっからじゃ、何も。

いろは：じゃ、もう一度組み直す？ 机を2つにして、真ん中にもう1つ置いて、ピラミッド状に組み直す。

キパー：そうすると、さっきよりは安定.....していないね。支え切れていないもんね。

玻奈：机は支えていられるけど、椅子までは手が届かない。

キパー：おし、じゃ、そこに立つならDEXの4倍判定で判定を。

連：32以下。(ころころ)きたっ、11！

玻奈・いろは：おーっ！

キパー：では、鼻の上まで天井裏に出せます。天井は意外と広く.....は、ないか。でも、屈んで歩けるくらいのスペースはあります。そして下からの差し込む明かりでうっすらと天井の様子がわかります。

玻奈：ふうん。

キパー：教室の中央方向、さっきシミがあった場所に、こんもりとした何か塊が見えます。

連：.....降りてきていっすか。(笑)

玻奈：なんでそんなものがそんなところに。

連：えーとあの。あの、ありました。この上に。こーいう感じの奴が。こんもりと。

玻奈：それ、滝沢さん？

連：えっ。いや。いや。あの。それは。やめましょうそういうのは。(笑)

いろは：滝沢さんですか、って聞いてみる。

キパー：.....反応はないです。

玻奈：はい、って言われても怖いよね。

連：出ましようよ。何が何でも叩き壊したい！

玻奈：もう一度ドア開くかやってみようよ。

いろは：OK、これで全員、ドアを叩き壊すことに異議はなくなった。(笑)

連：力一杯、全員で体当たり。

いろは：じゃ、割る勢いで。せーのっ！

キパー：――では、その時に。耳元で「.....ミステナイデ.....」という声がします。

全員 えーっ。

いろは：えーと、えーと、えーと。呼んでくるから待っててくれ〜。――と答えて、ひとまず体当たりをします！

キパー：どうぞ。STRの対抗判定ですな。

いろは：(ころころ)がーん。耳元でふってやられたから、力抜けた。

玻奈：(ころころ)あー、だめです。失敗。

連：(ころころ)61。

キパー：では、1人だけSTR15までですね。ドアががたんっ、ってすごい音を立てました。ぴしっ

とドアのどこかが軋んで、このままいけば壊せそう。

連：おー。

キパー：しかし、背後からは更に、「オイテイカナイデヨ……」という声が。気持ちを保っていられるかどうか、SANチェックしてください。

連：えええええええ。えー。どうすればいいんだ、これは。

玻奈：助けを呼んでくるから、待っていてよーう。

いろは：（ころころ）あ、やった！ 25！ 成功！

玻奈：（ころころ）03で成功。

連：（ころころ）うん、出ません。（笑）

キパー：青山君は1点だけSAN値を減らしておいてください。そして、青山君は脳裏にイメージがよぎります。何枚かの写真が脳内でぱんぱんぱん、って変わっていく。

いろは：スライドショーだ。

キパー：場所はここ。オレンジのコートの女の子がいます。目の前にもう1人いて、その人がしゃべっている。次の瞬間、その子が何かを振り上げる。暗転。

玻奈：嘘お。

いろは：殺人事件ー！？

キパー：あとは、ひたすら真下に……距離はそれほど離れていなくて、2、3メートルくらいなんだけど、すごく遠い感じの眼下に机ががーっと置いてある景色。そこに手を伸ばしたいというか、あの頃に戻りたいというか、なんでこんなことになっちゃったのって感じがわーっと押し寄せてきて……軽く立ちくらみ。

連：立ちくらみー。

玻奈：机は幾つくらい？

キパー：視界にはつきり焦点を結んでいたのは、3つでしたね。

玻奈：それできちゃったんだね。

連：これは、どうしたら成仏してもらえるのかなあ。

いろは：滝沢さーん、どうしたら成仏してもらえるのかな。

玻奈：天井裏は上がれそう？

キパー：さっきも目の高さまでは届きましたから、腕の力で身体を持ち上げることはできると思う。

いろは：どうする？ 1、置いていかない。2、置いていく。3、まだ考える。（笑）

玻奈：考えるは無限ループだよー！

キパー：時計とかで確認する限りでは7時間半くらいです。もう、『放課後怪奇くらぶ』じゃなくて『夜中怪奇くらぶ』になっている気がする。

玻奈：とりあえず、上……上がってみますか。

いろは：机ピラミッドを、更に強固に組み直す。

キパー：はい。行くのは誰ですか？

玻奈：は、は……い。青山君はここで寝ていて。

キパー：了解です。では、DEXの4倍判定を。

玻奈：（ころころ）85。

連：また落ちた。

キパー：すとーん。HPをもう一点減らしておいてもらえるかな。肩が痛いよ、ズキズキするよ。——そして、その肩を誰かが撫でた感じがするよ。（笑）

いろは：あ、でも、心配してくれた？（笑）

連：何かで天井裏を壊して、ぼとっと落とすとか。

玻奈：落ちるかな。

いろは：また三択です。1、落とす。2、引きずって出す。3、まだ考える。（笑）

玻奈：机以外に使える物はないのかな。脚立とかはしごとか。

キパー：それは、もっと熱心に探し回る必要があります。また〈目星〉ですね。



いろは：（ころころ）あ、やった！ 06！

キパー：では、折りたたみ式の中サイズの脚立があります。足を開くと1mくらいの高さがあります。すごい錆びててきしきしいっているけどね。

いろは：おー、じゃ、机をそれを開けるくらいにまで並べてその上に立てて……。

キパー：そこまでするなら、判定は7倍でいいですよ。誰が登るの？

いろは：あ、あたしは並べるのと押さえる係で。

連：あ、俺も押さえる方でいっすか。

玻奈：7倍なら100越える。（ころころ）成功成功。よいしょ。よいしょ。

いろは：野沢菜さん、頑張れー。

キパー：では、天井裏にまで上がれます。暗がりに透かしてこんもりしたものが見えます。屈むか膝をつくかで前に進めます。

玻奈：天井板が腐っていると怖いので、じわじわと。

キパー：はあい。下にいる2人は天井がみし、みし、と音を立てているのがわかります。

玻奈：時々状況報告。接近中で一す。

いろは：無駄だと思いつつ、進んでいる方を見上げている。とりあえず見ておく。

キパー：では、その場所まで行って見ると、褪せると何色になるんだろ……黄色っぽくなるんだろっか。頭に相当する場所に布袋がかぶされていて、身体は布。

玻奈：布袋？ ……下に報告。

いろは：……滝沢さんじゃないかなあ……。

キパー：で、あなたがにじり寄った場所には、下が見える節穴があるのです。真下が見える。2人が見上げているのがわかります。

いろは：うん、ちっちゃいとよく見えるよ。

キパー：そこで不意に、何かに割り込まれたような感じがする。机が3つ並んでいる夕暮れ時とか、朝とか、夜とか、いろんな景色がわーっと見えて。同時に、嫌だ、という感覚が流れ込んでくる。こんなはずじゃなかったのに、的な。

自分が野沢玻奈なのか、友達に呼び出されてここに来てガツツとやられた滝沢杏子なのか、ごっちゃになる。

玻奈：呼び出されてここに来た？

キパー：——はい、ここでPOWの5倍判定。

玻奈：幸薄いんですー。（ころころ）あ、21。成功ー。

キパー：では、あなたは自分の感覚ともう1つの感覚の切り離しに成功します。ただ、依然として、嫌だ、と、出して、っていう感覚がぼしばし叩き付けられて来るので、かなり動きにくい。

玻奈：うーうーうー。出すからちよつと待っててよー！！

いろは：野沢菜ちゃん、がんばれー！

玻奈：ちよつと待っていなさい！ 静かに待つ！

連：すげえ。説得にかかっている。

キパー：では、かさかさの手があなたの手を重ねる感じがして。「……ホントウ？」

玻奈：ほ、ほほほほ本当だから！ だから待ってなさい、待ってなさい。下手に動くな。

キパー：……では、その言葉に答えるかのように圧迫感は引いていきます。でも、一応、SANチェックしておこうか。

いろは：ははははははは。

玻奈：（ころころ）33、大丈夫。

いろは・連：おー。

キパー：ち、救出部隊を追加する必要がなくなりました。

連：うちらじゃミイラ取りがミイラになるだけだ。

いろは：だよねー。もっとえらいことになるよね。

キパー：では、ずりずりずり、と引っ張って、……どうやって降ろそうか。

玻奈：下で誰かに受け止めてもらうしか。滝沢さんを下ろすからそこにいて、と声をかける。

連：それやっぱ滝沢さんっすかー。

いろは：5秒ぐらい悩む。5秒ぐらい悩んだ後、覚悟を決める。

キパー：そんなに重くはないのですが、ちょっと脆いかもしれない。少しずつ押さなきゃいけない

玻奈：壊れやすいから時間かかるよー。

いろは：えーと、えーと、ミイラの保存の方法は、とかわけのわかんないことを口走っている。

(笑)

キパー：では、ずずっと、……ここは判定は特に必要なく、何とか下ろすことができます。受け取るのそんなに難しくないと思うから、判定はいらないだろうな。

いろは：吉村せんせえええ～！ 助けてください～！（笑）

連：吉村先生って誰っすか！

キパー：ですが、荷物の重心が天井から穴の側にいった瞬間にずずっ、って落ちることになるので、2人でぎゅっ、と抱えてください。

いろは：おっと危ない。

キパー：と、その弾みに、包んであった布袋がズルッ、とずれて、くわっ！ と見開いた顔が明るいライトの下で……目と目が遭います。

いろは：うわーっ、やっぱりーー！ 吉村先生吉村先生ー！！

キパー：というわけでSANチェックです。

連：（ころころ）成功している。

玻奈：（ころころ）ダメだ。

いろは：（ころころ）00！（笑）

キパー：00はファンブルだよ！？ 失敗した人はd4の、ファンブルした人は最大値である4点の正気度を失います。

いろは：33点になったよ。

連：すごい勢いで減っているな。

キパー：というわけで、夜のしじまに約2名の……悲鳴が？（笑）

玻奈：悲鳴。

いろは：気絶一。床が汚いとか気にしてられない。

キパー：同時に、ドアがガタガタッ、ガタッ！ って開いて、施錠確認に回っていた事務のおばちゃんが「あなた達何しっ……」

いろは：気絶。

玻奈：呆けている。

キパー：（ころころ）SANチェックは大丈夫でしたが、「きゃーーーーーー！」という派手な悲鳴が。

——で、校内に残っている人達は大騒ぎ。

いろは：あ、いたんだ。110番、とりあえず110番っ。

キパー：という騒ぎの中。お互いの後についていたものがすーっと消えていくのが確認できます。

いろは：あ、消えたー。……と、喜ばない。気絶している。白目剥いている。

## 終幕

キパー：ここから先は、後日談的な話になります。

玻奈：そう、そのやっちゃったって人は。

キパー：ええ。その後、警察を呼んで捜査が行われ、遺体は15年前に行方不明になった滝沢杏子に間違いがないことがわかります。

ちなみに当時、この事務室棟は使われていなかったんですね。新しい棟ができたばかりで、事務室もそっちにありまして。数年後に改築して、その時にこっちを事務室にすることにして、また使うようになったんです。

いろは：ふむふむ。

キパー：で、遺体の所持品の中に、クラスメイトからの呼び出しに関する覚え書きがありまして...  
...手帳に軽くメモがしてあったという程度だけど。

いろは：ああ、携帯じゃなくて、スケジュール帳か。

キパー：そこから、当時の同級生の男子に呼び出されたことがわかりまして。新しい証拠を元に再調査が行われ、殺人事件だということが判明。手帳が犯人逮捕の決め手となります。

いろは：うん。

キパー：彼女の遺体はご家族のところに送り届けられ、ご家族からは見つけたあなた方へのお礼の言葉があったよっていうふうに先生に伝わる。

で、このことは、5月中旬くらいには黄泉市の新聞に載ります。

いろは：うわーっ！ そっか、事件現場だもんね。

キパー：『遺体は在校生が発見した』と書かれるのみで、あなた方の名前が載るわけではないですけどね。

いろは：でも実際、A子とか呼ばれていても、これ誰々だよね、ってわかるよね。

キパー：まあ、黙っていようともウワサとしては広まるよね。どんなだった？ どんなだった？ と色々聞かれるかもしれません。

——そしてこれ以後、あなた達は、校舎の隅に影が見えたり、いるはずのない場所に人がいたりする風景を、たまに見たりするようになります.....

連：ホンモノが。

玻奈：変な免疫がついてしまった。

キパー：.....というわけで。お疲れ様でしたー。

全員：お疲れ様でしたー。

お疲れ様でしたー&ありがとうございましたー。  
久しぶりに遊べると、また、新鮮な気持ちでした。  
.....また遊んでもらえると嬉しーです。

## 成長作業

キパー：では、今回、死体を見つけたことで、1d4点ずつの正気度を回復します。

玻奈：え、私それ、足んない。

キパー：ええ。問題を解決したことで恐怖心はいくぶん克服しましたが、怖いものは怖いんだよ、という感じ。

いろは：なるほど。（ころころ）あ、2点しか回復しないよ。結局5点も減ったよ。

玻奈：（ころころ）3しか戻らない。36点になっちゃったよー。

連：（ころころ）これ、上限は変わらないんだね。どうしても30から上にはなれないんだ。元の数字に戻るだけ。

キパー：あと、技能の成長判定というものがあまして、チェックのついている技能について1d100し、1d100以上の数字が出たら、その技能は1d6%増えます。

いろは：以上ね。たあっ！（ころころ）あ、上がった。〈写真術〉上がったー。

玻奈：（ころころ）上がった上がった。

連：何も上がらなかった。

キパー：まあ、そんなに技能が上がるようなシステムでもないので、のんびりいきましょうー。

おしまい。